

岡田宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第5号

昭和62年11月吉日

発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番地
郵便番号 806
電話 621-1898

岡田宮と厄除やくよけ

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、「人生の折目」だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。それが「厄ばらい」です。厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをつけましょう。北九州の古社である当岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。皆様方おそろいで御参拝下さいます様御案内申し上げます。

昭和六十三年度の厄年

厄年(男)		厄年(女)	
二十四才前厄	昭和四十一年生	十八才前厄	昭和四十六年生
二十五才大厄	三十九年生	十九才大厄	四十五年生
二十六才後厄	三十八年生	二十才後厄	四十四年生
四十一才前厄	二十三年生	三十二才前厄	三十二年生
四十二才大厄	二十二年生	三十三才大厄	三十一年生
四十三才後厄	二十一年生	三十四才後厄	三十年生
六十才前厄	四年生	三十六才前厄	二十八年生
六十一才大厄	三年生	三十七才大厄	二十七年生
六十二才後厄	二年生	三十八才後厄	二十六年生

●厄除大祭 二月節分日

※年齢はかぞえ年で、

や およろず 八百萬の神

全国いたる所にある神社には、さまざまな神々がまつられています。神社の祭神は、ひとえに神社ごとの由緒(いわれ)にもとずいて決定されたものと思われま

す。古くから八百萬神(やおよろずのかみ)という表現があります。八百萬とは文字通りの数を云うのではなく、きわめて数の多い意味を表わしています。唯一で絶対の神をあがめる一神教に対して、多くの神々を認める多神教の立場が神道で、個性ある神々が協調して存在することに特色があります。

このことは、日本人が日常崇拜の対象となるものを広く「カミ」と呼び、これに「神」の字をあててきたことに由来しましょう。神秘的なすぐれた威力をもつたり示したりする存在や現象は、すべて神としてあがめたために、自然に多くの神々を成立させたわけです。

日本の最古の書物である古事記や日本書記には、多くの神々に関する伝承が記述されています。また現実の神社の祭神をみても、さまざまな神々があがめられ

ています。万物創造に関する神あり、天体の現象(日・月・星・風・雷・雨など)大地の現象(山・野・谷・川・海・岩石など)に関する神、動植物(木・草・兔・竜など)の神、人間の生活上(衣・食・住・水・火・交通・職業など)の神、人の靈(皇祖皇靈・氏族の祖神・武将・義人・功労者など)をまつた神など、具體的に例をあげてみますと、本当にさまざまです。

神々はこのように個別的な「神徳」をもたれているわけですが、同族や地域の共同体として実際にあがめられるときは、共同体の守護神としての性格から、生活上のあらゆる祈願をうけられ、またそれに対する恩恵をあたえられていると考えられます。

郷土地名考

⑤

東割 貞元開作の東部半分で、右の引用の「地高之所」であろう。

西割 同じく西半分で、東割・西割共に鉄道の北側の地帯。

養竹 中世に村が成立しており、ヨウチ

クの語よりヨウジャクの転訛が推察されるが、国道三号線より西鉄・国鉄の線路を含む旧海岸線地帯であり如何であろうか。熊西二丁目一番附近を含んではいる。躍崎の東辺という六人浜が近い。六人浜は承応(一六五二〜四)の頃の開作というのが事実とすれば藩政初期には海岸部は未開墾地の可能性が強い。貞元が中世の名であることよりすれば、その隣接地である養竹もヨウジャクの転訛と考えられなくはないが、それよりも、全くの推測乍ら字義通り「竹やぶ地帯」と考えた方が妥当かもしれない。

貞元 中世の名、国鉄線路より南の地帯。現熊西一丁目附近。

行部田 熊手村菊武にあつた熊手権現を慶長年中に長尾の地に移した時の神官波多野刑部兼政に因んだ地名で、刑部の田の意。山寺町と東玉子町に含まれる地域。

内ノ原 熊西小学校は大字熊手一三三〇番地にあり、内ノ原の略中央部に位置する。「本村(山寺・貞元)の上手の開墾地」の意であろうか。

田良原 滑らかな緩斜面を意味するタラ原が加わった地名。

神社なぜ問答

(その4)



問 神社の手水舎に、「手水のつかい方」と、書いてあります。そして順序が書いてありますが、これには何かわけがあるのですか。

則松 奥野美穂 十九才(短大生)

答 「手水のつかい方」の、つかいは、仕奉る、の意味があります。普通だったら「手の洗いか」とか「手を洗う順序」とかになるべきでしょうが此の場合「手水のつかい方」となっています。つかい方としてある所に大きい意味が秘められています。つまり、手を洗って清潔にし、口をす、いで清潔にする意味もあります。が、それよりも大切な事は、身体のお清めの意味があります。

神様に敬意を表す手段として水で身体を清めたり、被服を着替えて神前に入る

事が、一番よいでせうが日常生活の中でなか／＼そこまでは出来ません。

そこでこれ等を略して手水をつかうのです。つまり「ツカエマツル」のです。

ですから、その時からすでに心の中に表敬の念があり、御神前に出る心の清を行うことになります。また順序として柄杓で水を汲み第一に左の手を洗い、柄杓を

左に持ち替えて右の手を洗い、次に右手に柄杓を持って水を左手に受けて口をすすぐ、次に柄杓を縦にして柄杓と手の全体を流す、此の順序ですが、左手から先

に洗うのは、伊邪那岐神が日向の小戸の橋の、小戸の阿波岐原の中津瀬で御禊された時、初に左目をお洗いになつて出現された神は日の神、つまり天照大神が御出現になり、右目を洗われたら月読神が御出現になり、鼻、口元をお洗いになつたら須佐男神が御出現になった、と古事記、日本書記に述べられています。

手水の順序は此の故実に習つたものとされ、私等が神前にいろ／＼なお願をしたり、お礼を申し上げたりする、そのものが貴い神々の御出現を願ふ意味であると、共に氏神様を通じて、秩序ある日月の道

を歩み、科学と倫理の均衡を保つて人類の弥栄を八百萬の神々に祈念する。そして日常絶ることなく頂いてゐる魂魄の清々流転にご神気の感応を賜わつて平和なる国民としての義務をはたし仕奉る。その第一歩が「手水のつかい方」の中に秘められた真の意味であると解釈いたします。

神社は民族信仰の原点

どこの町、どこの村へ行つても、必ず神社があります。地図を開けば必ず円のマークが目に入り、神社がその場の大切な目印になっていることは、誰でも承知していることです。全国統計では約八万社余りと云われますが、それは宗教学人として登記されている神社の数であつて、実際にはもっと多くの神社があります。町村内の区画である字や路傍うにみられる小社、親族でまつたり屋敷内にある社などは、統計上の数字にはあらわれないのが普通です。

神社は日本人の「心のふるさと」だと表現されます。人々の精神的なより所として、また地域社会の調和・統合の象徴として、長い歴史を歩んで来たのが神社であつて、まさに民族信仰の原点に位置するものでありましょう。

年末年始の行事案内

●大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

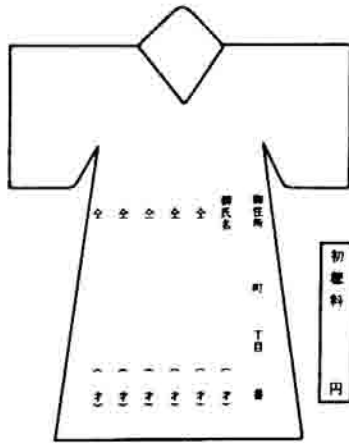
形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹掛け初穂料(お思召し)を共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

岡田宮大祓式

七月二十九日午後六時
十一月三十一日午後十一時

当日の式に御参加される方のための形代として、この形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹掛け初穂料(お思召し)を共に袋に納めて十二月三十一日(七月二十九日)までに町内の神社総代か底は宮迄お届け下さい。なお、不要のあった方にはお返しのため大祓式を行って下さい。

岡田宮社務所 六二二一八九九



形代(裏)

形代(表)

●歳旦祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願ひする神事、午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。同時に地元青年会による神酒接待もあります。又、今年から七福神みくじ(百円)和英両文みくじ(五十円)を授与しております。



(七福神みくじ)



(和英両文みくじ)

●特別祈願祭 一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

●成人奉告祭 一月十五日

新成人のお祓いをします。

●どんど焼祭 一月十五日



(1月15日 どんど焼まつり)

古くなった、縄、門松等を焼納する神事。地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい、福引等の諸行事が午前中に奉納されます。

●厄除大祭 二月節分日

厄年の方は是非ご参拝下さい。

編集後記

●毎月一日、十五日には毎朝地元老人会の方々が清掃奉仕をされます。

ある日の事、若いアベックが、掃除をしたばかりの階段に、パン袋とアキ缶を捨てて去って行きました。我々にとって、道徳、礼儀、躰とは、なんなんでしょうか、若い二人の心がすきんでみえます。

●祝祭日には国旗を掲げましょう。

●一日、十五日には神社に参りましょう。